



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしょう

No. 353

令和6年9月27日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141

<https://www.city.mitsuke.niigata.jp/site/misho/>



好きこそ物の上手なれ

校長 後藤 正美

1年生のたし算の勉強をイメージして、以下をお読みください。

5 + 2 = 8 と書いている子がいました。あなたなら、どうしますか？

もちろん場面によって異なるでしょうが、私は以下のことを心掛けていました。

- ① 最初は、放っておいて様子を見守る。
- ② しばらくしてから、「5 + 3」ならいくつになるのか、再度自分で解決させる。
- ③ それでも気付かない場合、「5 + 4」をやり、10のまとまりを意識させながら、自分で間違いに気付かせる。

一見遠回りのようですが、こうした積み重ねが算数好きの子を育てます。焦って間違いを指摘するのではなく、不完全な答えの着想を生かす支援が大切です。子供を信頼し、「よく気付いたね」と、「発見の手柄」は子供から引き出すということです。私自身の担任経験からも、子供がその教科を好きになること、これが学力向上の一番の近道と言えます。さらに、失敗しながら発見する楽しさを感じ得ることで、子供の好奇心も育っていきます。

さて、6年生の全国学力学習状況調査の結果が発表されました。みらい学年の子は、国語・算数の両方で、県や全国の平均正答率を上回りました。低学年の頃からの積み重ねの結果と言えます。質問アンケートからは、以下のよさが見えてきます。

- ・「問題の解き方が分からないときに、諦めずにいろいろな方法を考えますか」の、肯定的評価が87.5%と高い。
- ・「スマホやタブレットの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」の問いに「きちんと守っている」を選択した割合が全国より10%以上高い。

こうした学校や家庭における学びの姿勢や学習環境、それぞれの果たすべき役割が何より大切だと改めて実感しました。一方、「国語や算数は好きですか」の質問が、全国平均を下回るという残念な課題も見えました。意欲を伸ばすことで、一層の成長が期待される子供たちです。

9月17日には算数の外部講師を招聘し、算数好きを育てるための全体研修会を行いました。笑顔と真剣な眼差しが多く見られ（写真上）、子供主体の授業を考え直す貴重な研修時間となりました。いい授業とは、子供の表情が教えてくれるのです。